

(2) 交通事故の削減

・ 生活の安全を守り、安心とゆとりを持って暮らせる地域の実現

地域の概況と課題

県内の死傷事故件数は1日平均約180件で全国第3位、死傷事故率で見ると約240件/億台キロで全国ワースト1となっています(図2-1)。

主要な国道の死傷事故率を見ると、県東部では、多くの路線において100件/億台キロ以上の死傷事故が発生しており、特に、横浜周辺の臨海部、保土ヶ谷区周辺・金沢区周辺、及び茅ヶ崎市周辺などに集中しています(図2-2)。

県内の交通事故死者数に占める歩行者や自転車利用者の割合は約5割です(図2-3)。

全国でも高い死傷事故率

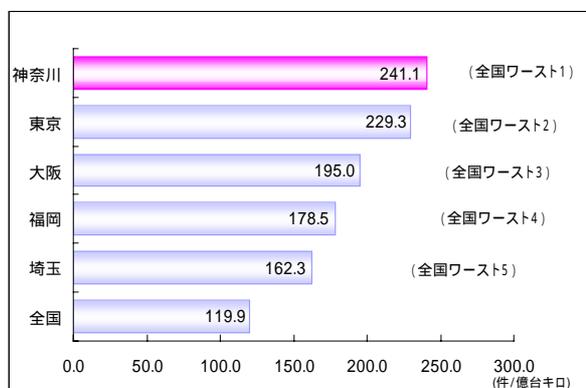


図2-1 死傷事故率(平成15年)の順位

資料:平成15年度道路行政の達成度報告書・平成16年度道路行政の業績計画書(国土交通省,平成16年)

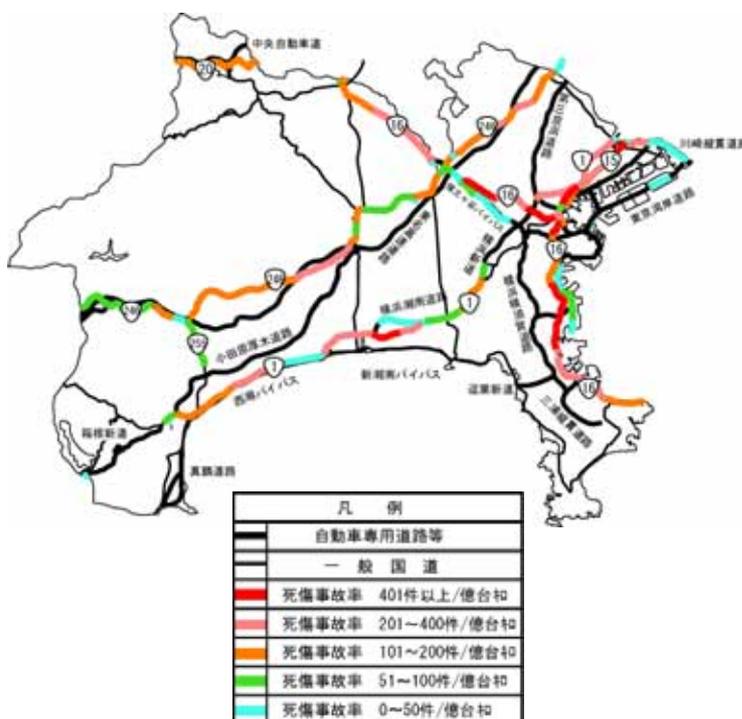


図2-2 主要な国道の道路交通センサス区間別死傷事故率

資料:国土交通省データ(平成15年)

歩行中・自転車乗車中に多い交通事故死者

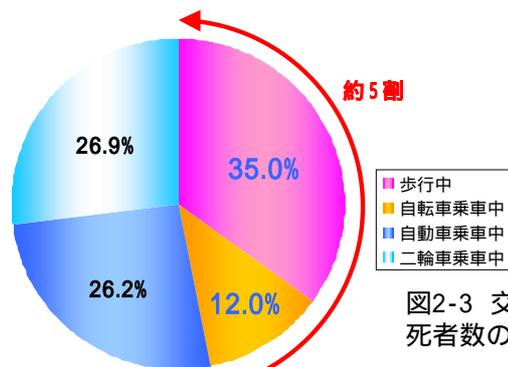


図2-3 交通事故死者数の状態別内訳

資料:交通年鑑(神奈川県警察本部・神奈川県,平成15年)

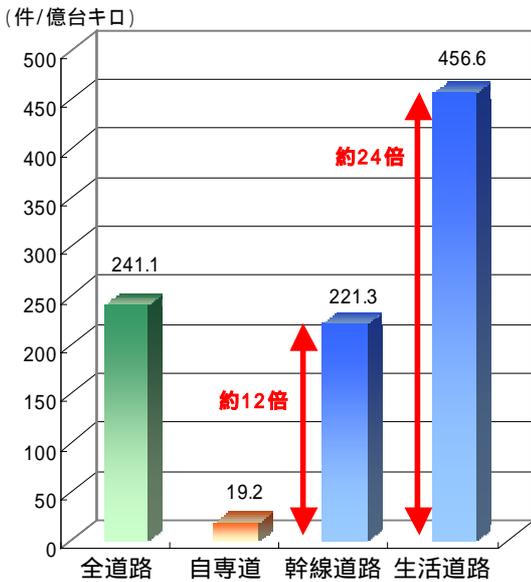
課題

全国でも死傷事故率が高い状況であり、交通事故死者数の多い歩行者・自転車利用者による事故など、少しでも多くの交通事故削減が課題となっています。

課題の要因

自動車専用道路1kmあたりの死傷事故率は、生活道路や幹線道路と比較して、大幅に低くなっています（幹線道路の約1/12：図2-4）。しかし、県内の自動車専用道路網については、県土全体のネットワークが形成されておらず、地域の通過交通を減少させるための環状道路などの整備も十分ではありません（図2-5）。自動車専用道路の整備により、少しでも多くの自動車交通を、幹線道路等から自動車専用道路に転換することで、死傷事故の削減が期待されます。

死傷事故率の低い自動車専用道路ネットワークの不足



自動車専用道路：高速自動車国道、指定自動車専用道路、
 その他自動車専用道路
 幹線道路：一般国道、主要地方道、一般県道
 生活道路：上記以外の道路

図2-4 神奈川県内の道路種類別死傷事故率
 資料：平成15年度道路行政の達成度報告書・平成16年度
 道路行政の業績計画書（国土交通省、平成16年）



図2-5 神奈川県自動車専用道路等の現状と計画

交差点における死傷事故発生の多さ

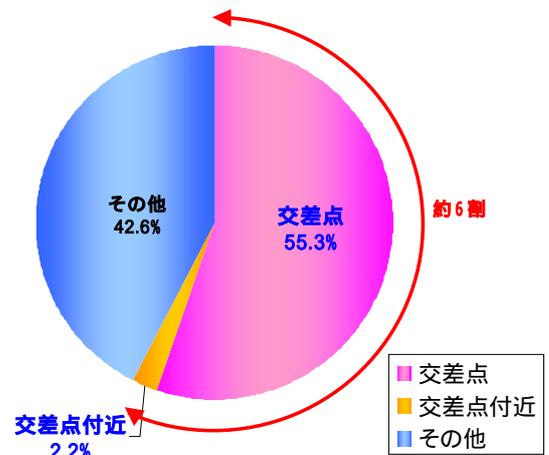


図2-6 道路形状別に見た神奈川県死傷事故発生箇所
 資料：交通年鑑（神奈川県警察本部・神奈川県、平成15年）

死傷事故の約6割は交差点または交差点付近で発生しているなど、特定の箇所に集中して発生する傾向があることが分かっています（図2-6）。

市街地内の事故発生割合の高い地区において、歩行者・自転車を優先する道路構造の整備や、交差点など事故の発生率が高い箇所について、集中的に対策を実施することで、交通事故の削減が期待されます。

指標3：死傷事故率

成果目標

死傷事故率

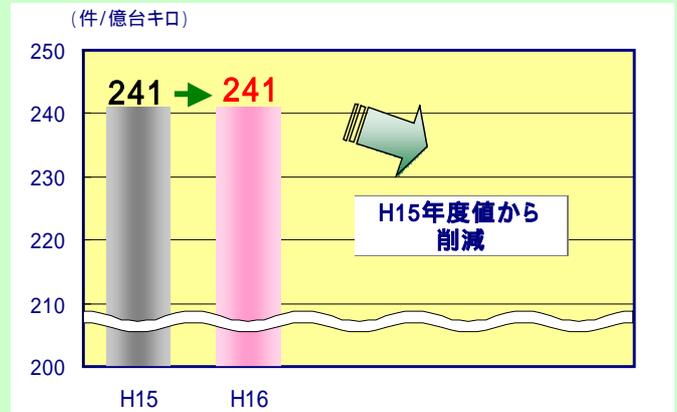
ある区間の死傷事故率 =

$$\frac{\text{区間の年間死傷事故件数}}{\text{区間距離} \times \text{区間の年間交通量}}$$

対象：平成11年度道路交通センサス区間

死傷事故率は、**現在241件/億台キロ**です。
早急に**全国ワースト1返上を目標に削減**することを目指します。

死傷事故率の目標値

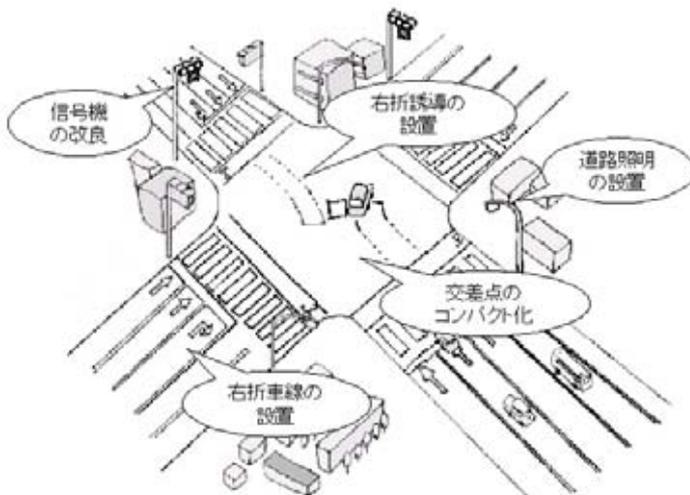


課題の解決に向けた関連施策・事業

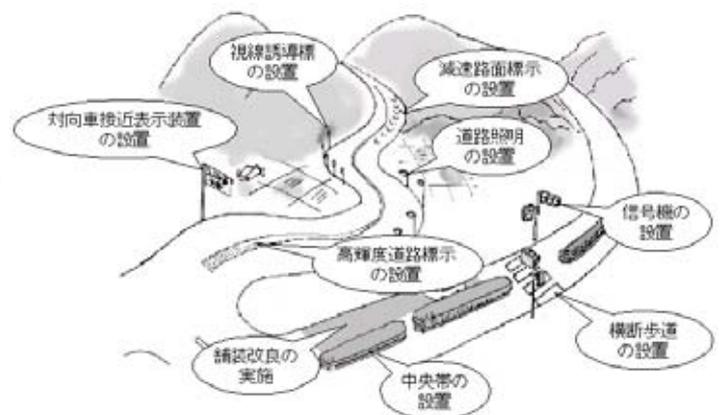
事故危険箇所対策 - 交差点や単路部の安全対策

特に事故の危険性が高い事故危険箇所を指定し、交差点における**右折車線の設置**、**道路標識の視認性の向上**、**単路部における中央分離帯の設置**など、事故抑止対策を集中的に実施します。

< 交差点部における事故危険箇所対策イメージ >



< 単路部における事故危険箇所対策イメージ >



出典：国土交通省資料

あんしん歩行エリア - 地区の安全対策

歩行者及び自転車利用者の安全な通行を確保するため、緊急に対策が必要な「あんしん歩行エリア」において、地域住民の意見を聞きながら、公安委員会と道路管理者が連携して面的かつ総合的な死傷事故抑止対策を実施します。

現在、神奈川県内では「あんしん歩行エリア」が50箇所指定されています。エリア内では、死傷事故を約2割抑止し、そのうち歩行者又は自転車利用者に係る死傷事故を約3割抑止することを目指します。

< あんしん歩行エリアの整備のイメージ >

< 神奈川県内あんしん歩行エリア対象地区 >

■歩行空間の整備

- 路側帯の拡幅
- 歩道、自転車道、幅の広い歩道、歩車共存道路の整備
- 段差・横勾配の解消、電柱類の地中化



■信号機等の整備

- 交通量等の情報を基に、信号機を制御
- LED式信号灯器、バリアフリー対応受信機を設置
- 高輝度・自発行式道路標識等の設置



■交差点の改良

- 右折車線の設置
- 交差交差点の改良
- 駐車スペースの確保
- 違法駐車を取り締まり



■歩行者・自転車を優先するゾーンの形成

- 最高速度規制
- 歩行者自転車用道路の規制
- ハンブの設置



出典：国土交通省資料



< 事故防止対策事例 >



出典：横浜市資料

【あんしん歩行エリア平成15年度事業着手済地区・平成16年度事業着手予定地区】

着手年度	市区名	地区	関係道路管理者	着手年度	市区名	地区	関係道路管理者
平成15年度	横浜市鶴見区	鶴見駅周辺地区	横浜市・横浜国道	平成16年度	平塚市	中原・御殿周辺地区	平塚市・神奈川県
	横浜市神奈川区	大口駅周辺地区	横浜市・横浜国道		横浜市磯子区	磯子駅周辺地区	横浜市・横浜国道
	横浜市泉区	いずみ野駅周辺地区	横浜市		横浜市金沢区	能見台駅周辺地区	横浜市・横浜国道
	横浜市西区	総合庁舎周辺地区	横浜市・横浜国道		横浜市南区	弘明寺駅周辺地区	横浜市
					横浜市緑区	長津田駅周辺地区	横浜市・横浜国道

資料：神奈川県・横浜市データ